## ◆　文京都税事務所長賞　◆

「実体験を通して」

文京区立第三中学校　３年　菊地　碧

半年前に私は日本を離れて一人で異国の地へと約２ケ月間の留学を行いました。その時間は外国と日本の税金によって実際どのようなことが学校生活の中で支えられているか、体験を通して知ることができました。

例えば皆さんがほぼ毎日食べているその給食、私は小学校の頃から大好きで毎朝給食の献立を確認しては、四時限目の授業から待ち遠しくしていました。そして、授業が終わるとすぐに温かい大好きなご飯が食べられると当たり前のように思っていました。しかし、それは実際間違っていて、給食自体が世界的に見てもとても希少なことだったのです。私の留学先の国も給食はなく、お昼時はお弁当を作って毎日持参するか、一度家に帰って食べる生徒がほとんどで、私も弁当の持参、もしくは一度、ホームステイ先に戻ることが多く、慣れない大変な環境に戸惑っていました。なので、いざ日本に帰ってくると、温かい出来立てのご飯がすぐに食べられるということにとても感動したのを覚えています。そして久しぶりに食べたその味にありがたみをかみしめて給食を食べ、国が保証してくれている素晴らしさを知ることが出来ました。

そして、もうひとつ私が現地で気が付いたのは教科書についてです。日本では、新学期になると新品の教科書が無償で一人一冊配られますが、現地ではそんなことはなく、基本は自分で買うか借りるかの二択でした。当時の私は買うと何万もするその教科書を買うのは難しく、借りて利用していました。けれどもその教科書は基本持って帰ることはできず、学校の専用ロッカーに入れて保管しなければなりません。そして、何より大変だったのは学期末のテスト勉強でした。持って帰れないという不便さをそこで初めて感じたとき改めて教科書が無償でもらえるというありがたさを知りました。

私が毎日使っている教科書には、「無償提供」の文字書かれており、それらは税金によって私たちの手元に届いています。いつもは新学期に何げなく名前を書いていたその教科書はたくさんの人の支えによって生まれた貴重な一冊だと考えると私は、意外と近くで税金に支えられ、関係を持って暮らしているなと感じました。また、多くの子供により良い環境で、不便なくのびのびと学習してほしいという国からの私たちへの思いがとても伝わってきて、学校での毎日の授業をもっと大切にしようと思えました。そして、これらは多分ほんの一部にすぎず、実際はもっとたくさんの場所で私は税金に支えられ、毎日を楽しく過ごせているのではないかと思います。

今回私は、税金によって多くのことが支えられていたことが分かりました。そのことを忘れずに、この教科書を使って沢山のことを知り、そんな期待にこたえられる人になりたいです。そして、今度は自分が未来の子供たちに税金を通して支えたいと思いました。